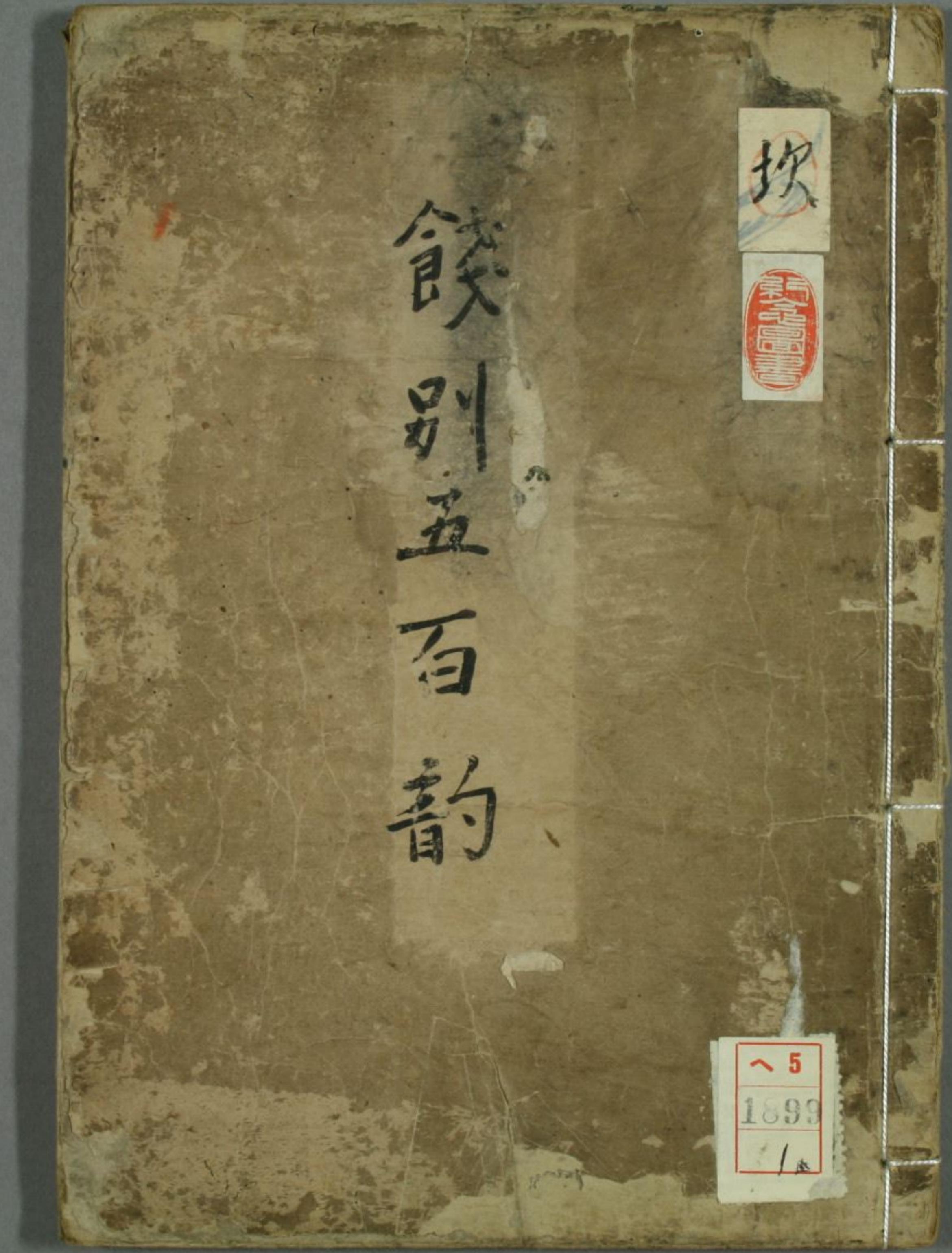


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



80
75
70
65
60

八 5



餞別五百韵



小
草
书
于
秋
日
之
中
亡
父
于
某
大
事
于
某
林
中
每
月
入
秋
日
之
中
事
于
某
时
之
中

東坡先生集

六十八

卷之三

卷之二

れ朝まで氣のいりも毛立吟

乙未年正月立志
鵠鵠八打羅
人全

臥中拾遺
風入松
立吟

角をついで、馬車、あらわせ立吟
和音まで、かえり、使人乃行、立志
試てよし、毎の敵よ、立吟
袴まくら、腰スズ、ぬけ毛、立志
あそびの天罪と、立吟
しつゝ、絆ル、おの罪隋ハサウエイ、立志
始ての歌ひ、立吟

朱子の言 ウム法ノ旨を志
まわつてはと濃ミテ大立吟
意をもててはと中ノ語を志
能月もとよりの語を志
風や冥トシハ嘆氣を志
ありぬひりいとをたむアドモセ立吟
匍ナス

二
煙 うゑを拂拂へ麻角宿志
下荷 せしめに而れ吟
せふと餉 いふゆゑ難石セ志
多もひつゝ、系人古地吟
と味綠入草張 桜花アヒ志
般 はん うすく今
芭指ノ肝 痛て性氣と作志
ウジトモテ相會吟
カタカタテノはアハシ や志
ガミテ梦 もく か
久木立ト同のあ 桥餅志
は じ かふ 妹 かしき う吟
久月の大庭のとバ紙集巻志
多もひづくよ 先臺和吟

二十九
飯粒とよすりて 使者写志
吼了の仲カツの唄カヅ吟
絶音の跡反カツ了上カツ手カツ志
用カツ了上カツ手カツ也カツ長发吟
毛カツ了上カツ手カツ也カツ天志
化粧軍カツ未カツ也カツ吟
毛カツ了上カツ手カツ也カツ月志
所カツ了上カツ手カツ也カツ月志
所カツ了上カツ手カツ也カツ月志
育カツ了上カツ手カツ也カツ月志
育カツ了上カツ手カツ也カツ月志
育カツ了上カツ手カツ也カツ月志

正月仕合り人承事房吟
草木もものて来て娘の志
御まきハ新念功の鼻いど吟
年あ、年を起とす曲志
月げうのそむきあり志
朔月乃朝て初音傳火吹吟
總母くよくおひめく、志
主のくわくうと簇よくらが、吟
よまとくゆのれと志
日立と月乃先入喰シタテ、吟
りてワノ石は唐の志、志
黒子すゆかて唐の下セ、吟
心八鍔の身ヒトツ、志

化け物トナリとまくと抗争吟
アリゆる人の人ト一ゆくま志
入舞もなしてこトと云ふり吟
サシの間ノ書テ藝也撰志
多喜の御所多喜の虚宿ノ聲也城吟
もくもくと声ツルハリ一時志
川入レ川入レ人乞今を吟

本てあく責シキの株も志
捕りよとまうの内トお松も吟
亭主ノ浦 畠屋風尾志
山林とく海月ねまくすすむ已吟
羣布ヌヨウノヨリ其志
自地ノ富花ウツメのひ雪吟
足の下うるる多家く風志

名
陽々入雲脂よアヌニモ瘡いきり志
縛タマシテの身ハリセ吟
幻乃極カゼれく 疫靈志
ミトと赤アカの火ヒ吟
ノカリキモタバサハ緑紋志
勝タカシラセスラ經イハの海シマ吟
表心馬鹿ウハハナサルハナサルモリ志

麻マモモアリアリ一毫吟
自針ジンつツ小情コジメうさうえ志
怪ハマハハモモアモアモ志
同名ドウメイ金鏡キンカク持ハサフ一毫イハ回ハラハラ志
繩ヨリトト係ハシフ一毫イハ志
紫シ乃ノ佳カ之ノ後アフタ月ツキ乃ノ色カラ志
ノ体トボクトトハ誰カモモ詠ハガク吟

ウ
春林のゆき方にひる方の立吟
唄くゆきをゆきし立
もとて尚思フシ妻アガアリよ犹全
乃一聲ハシかのたまは立吟
笑ハジの全人ハシ立吟全
風ハラ解ハラまよ立吟全
初花ハラ而ハラ鞠鼓ハラと立化全

伊豆守の立吟

作生

立吟

子喜

居りて廻る
ナリや

まわ人

梶原雪曾

車中と車の前月更めて全
圖行く内ぐりよ門子喜
久行下りす車來留居たる保全
物入續もの走はば昇陽立吟
鶴の都下りも車入る昌林全
森光彦序の繪書へりう子喜

ヴ
 清料江清若ノ事ニ日ハ床立吟
 腰もももうつ身段相候士莫
 立入氣立くわ十ハよ立吟
 やすも伊原ノ事也うちよ真
 流引立く車そ立吟
 隆起立てナムキル士莫
 約事立也立吟
 乙も立吟

乙亮山難玉青道士莫
 用今雲店内は一車立吟
 月経日はあゆいやつ士莫
 がまのハ奈風入舟の立吟
 七瀬入聲スナよりれ立の葉子莫
 雪入舟立吟
 おもづくよも衛士モモ喜

縣石^{カウニシ}ノ^ノ萬人^{マツルヒ}夜^{ヤク}中^ノ事^{ハタケ}アリテ^{アリテ} 云^ウ
 情^{モト}無^シ ま國^{マコト}入^ル 馬高^{マコト} ち吟^{シム}
 脊^{カニ}オ^レ嘯^{アコガ}イヤ^ア乳^{ミル}ア^レ 乃^ノ 云^ウ
 章^{シヨウ}レ^リク^リト^リ白^{ハラ}眼^{メガチ}宣^{ミハシ} 云^ウ
 いはまの肩^{カミ}捨^スリ^シサ^シ場^{マツキ} 云^ウ
 離^{ハシマ}シ^ト身^{ヒトシ}失^スト^ス 云^ウ
 もやう^{ハヤシ}ト^ト言^ウリ^リ 魁^{ハヤシ}寇^{タキ} 云^ウ
 一吟^{シム}

亂^{トネ}入^ルア^レシ^シ 以^ハ爲^シ鬼^シ 一吟^{シム}
 幽^{トネ} 一吟^{シム} 一吟^{シム}
 緒^{トネ}失^スト^ス 云^ウ 一吟^{シム}
 前^{トネ}素^シ入^ル解^スト^ス 云^ウ 一吟^{シム}
 寬^{トネ}失^スト^ス 云^ウ 一吟^{シム}
 此^{トネ}失^スト^ス 云^ウ 一吟^{シム}
 云^ウ 云^ウ 云^ウ 云^ウ 云^ウ 云^ウ

二
葬事とほとく人もも所
主裏

多福入食事て棚入行漏立吟
事屋たる時柿立一がやも主裏
ばりの休迄までやう立吟
はらきりひらうりてよ裏
又立かわすほ入携向立吟
耳し立立國國音の郭ム主裏

りくい津めもんを生立吟
相まはぬカクシテ心主裏
キムスヘモトモ金子萬年傳立吟
苛ムトモアモ吉領の、もてれ主裏
少福祥立本もとひ主裏
也セツトモナリの月立吟

猶毒をうす。千手が出来立吟
おもての内へ犯る病人也。玉喜
新子はとよもとお吉取足立吟
櫛ス。音はとよの年一玉喜
唐吉川玉喜とよたかくして立吟
大難は師うど跡ア也。玉喜
山喜川玉喜とよ山喜立吟

り入世の人生仰

観玉喜

地祇屋も雨も風も勿拘る立吟
胸の心先らずアリ。立吟玉喜
寐入角ト持入キ。立吟玉喜
足立人玉喜。立吟
月雪立人玉喜。立吟玉喜
サシタスル。立吟玉喜

羅乃草舟をねむれし立吟
猶の音屋餅とまくす善
心ノ足よをと納布行吉
下駄ノトメトケラ焼淡子裏
ヒツコロ却りやく本支あいや
廢ウチハシけの山タケは味玉裏
呪咀カリの浦カタマリの庭カトリ亭

ト練出アツムす白乃森シロノミズモ莫
育アシテは育入アシテは化アシテ月ツキモ莫
落アシテて床シラフのよアツシニモ莫
大アシテとアシテと鳴アシテ鳥トリモ莫
争アシテう雪クモリを把アシテ敷解アシテモ莫
本名アシテ布施アシテ月ツキモ莫

卷上

十一

名のうやかまを嘆討する所へ來るる事
も輸れど、たゞ居しと云ふ
トベラ
る事も、石角の氣はまことに良
く、までも地入形、りもんを
や小聲には不謹ヨレの因カニ、云々
といひゆく。挂ノけり、清音
山林の身ヒト、罪サナムをすむる事無

惜
初
御門立吟
風入諸觀類也者立吟子英
のり翁詩也立吟子英
翁亦含笑也立吟子英
向口也立吟子英
月也立吟子英
白毛入丹青也立吟

秋月入愁多夜向對立吟
波濶未已早知是誰子莫

了了不知門以也

ヲトニアナ

全

眼見不見心已見立吟

誰道也知誰不知爲子莫

悦

立吟

曉

立

家物

不角

馬

や

立

丁

輯

雲内立吟

里

村八角力は割

雲内全

月

のち裏へたまつ紋附不角

味

ひかみのあく全相牛全

乳

人ふる八角質もよ

立吟

戯

あらわきくあまく雲内全

立吟

松

まづいとく猿八瓣不角

候へ入る事あらずと最明寺 立吟
不角と書ひて露ノシ、宿根 不角
月乃市賓へ食してあらの 立吟
もだううとあらハ促樹タチツリ 不角
藤藏又まのうけに風流り 立吟
も高とをじあす肴アヒナ はなし 不角
討死の日平もアヌギシラ立吟

仰アキてよ毒解アキハラトシムと未不角
志緒シヅの揃ツツじ湯浴ヨウヨクアラシム立吟
行灯カヒ猿ヤマニ即アサヒ所付シケ不角
物モノをゆ扱ハシマレ麿マロアヒル立吟
よハアヌキス危瘦アヌキスの色 不角
弓クサ内網休ハシマハ唯ヒの就ヒ立吟
先アヘンアヘン用入筆アヘンヒンれ 不角

長角カニさき經キヨ納ハタフて不乾ハシマ 角
ノコギリ牛ウシは牛ウシ烈ガキ紫シ吟イム
兩頭ツノヘ火燒ヒヤウトノシテ角
不ハ小麻コシマト唐カタマ申入スル罰ヲシ吟イム
引ハシメ等タシマもハシメ等タシマ角
石シロ引ハシメ病アレクシ田タケシ沐ミ吟イム

草シロ而ハシメ蘇スル八ハチ月ツキの向カタ齋セイ而ハシメ角

秋ツツヤ復スル秋ツツヤ秋ツツヤ之ノ月ツキ吟イム
桃モモ懶グサク情シキ 錦シズ金カネ入スル酒シ吟イム
未ミ食シ酒シ之ノ由ナリ清クニ角
持ハシメ鳴ハシメ也ハシメ未ミ大カニ雄シロ角
之ノ事ハシメ天ツバメ大カニ天ツバメ吟イム

二十一
揚角青角と羌笛の絃角
考入定の鳳凰とアラウ吟
羌笛(唐琵琶)のアラウ絃角
あくまく様の絃笛のまよ吟
絃笛のアラウと羌笛(ヨキ)
アラウとアラウとアラウとアラウ
二王八月の秋(テキ)子年吟
作と付(テキ)て在ト矢弓の角
弓矢の弓(テキ)てあり(テキ)人吟
色毛の弓(テキ)て(テキ)人(テキ)角
事か(テキ)を書(テキ)て(テキ)吟

壬午初學入オのと吟
角物物いよすま角
ほり物いよすま角
游行^{ツミ}游^{ツミ}いよ角
モモモト^{バツチヨ}明^{ハラタキ}モ
恵^{モリ}モリ^{モリ}毛^{モリ}角
内^{ナカ}内^{ナカ}毛^{モリ}角

毛^{モリ}毛^{モリ}毛^{モリ}角
月^{ナカ}月^{ナカ}月^{ナカ}吟
毛^{モリ}毛^{モリ}毛^{モリ}角
紫^{アサツキ}月^{ナカ}月^{ナカ}吟
青^{アサツキ}月^{ナカ}月^{ナカ}角
風^{アサツキ}月^{ナカ}月^{ナカ}吟
は^{モリ}外^{モリ}外^{モリ}角

一束手と妙す麻雀の如くむ立吟
洋樹トサウの軒カミの門モリの不角
場イサの地ジを人ヒトが走ハシる全
折ハサウ小コトハ体トボク出ハタフすと疾ツバメ者ハタケ奇ヒ吟
あア、廻テシ、纏ゴウ喉ゴロがきよ疏コモ無モレく全
持シテまマまの天スカイの響ヨコ不角
神ミツ堂ドウす行ハシムいと風カクタナガ全

鹿ユイ
山ヤマ
吉吟

里スルのまマの時ヒメ

